

町田市スポーツ振興計画

スポーツで人とまちが
一つになる



町 田 市
2009年12月

はじめに



現在の私たちの生活は、車社会の進展など便利になる一方で、運動不足による体力の低下や生活習慣病の増加が社会問題になっています。また、ライフスタイルの変化に伴い、核家族化や地域社会の弱体化による人間関係の希薄化、コミュニケーション能力の低下も大きな課題となっています。

こうした状況で、スポーツの持つ役割も体力向上や健康の保持増進、青少年の健全育成といった本来的な役割から、生活習慣病の予防やストレスの防止、地域コミュニティの活性化やスポーツを通じた都市環境の整備、地域経済への貢献などといった社会的役割へ拡大しています。

本市では、スポーツの持つ役割の拡大を踏まえ、スポーツ振興の基本的な考え方とその考え方に基づく施策の展開を示す「町田市スポーツ振興計画」を策定いたしました。

この町田市スポーツ振興計画では、「スポーツで人とまちが一つになる」を基本理念として、「する」スポーツ、「みる」スポーツ、スポーツを「支える」の3つの場面で施策を展開することで、「スポーツに親しめる環境の創出」、「地域のつながりと健康寿命の向上」、「魅力的で活力あるまちの創出」を目指しています。

また、この計画は、市民・企業・大学・行政などが協働することにより、推進していくものです。市民の皆さま一人ひとりにこの計画の主人公になっていただき、私たちとともにこの計画を実現していただきたいと考えています。

終わりに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました町田市スポーツ振興審議会の委員の皆様方をはじめ、貴重な御意見をお寄せいただきました多くの市民の方々に対しまして、深く感謝申し上げます。

2009年12月

町田市長 石坂 丈一

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画の主旨	3
(1) 計画策定の主旨	3
(2) 計画の全体像	3
2. 計画策定の背景と目的	5
3. 計画の位置づけ	8
4. 計画の期間	8
5. 本計画における「スポーツ」の範囲	9
第2章 計画の基本的な考え方	11
1. スポーツ振興の基本理念	13
2. スポーツ振興の考え方	14
(1) スポーツ振興で想定する3つの形態	14
(2) 多様な主体による「協働のスポーツ振興」	15
3. スポーツ振興の3つの場面と施策の展開	16
4. スポーツコミュニティと3つの場面との関係	18
第3章 3つの場面と施策の概要	19
1. 3つの場面と施策の展開	21
2. 「する」スポーツ	22
(1) 現状と課題	22
(2) 目標と施策の概要	22
3. 「みる」スポーツ	29
(1) 現状と課題	29
(2) 目標と施策の概要	29
4. スポーツを「支える」	34
(1) 現状と課題	34
(2) 目標と施策の概要	34

第4章 具体的な展開（当面の重点施策）	43
1. 3つの重点施策	45
2. 地域スポーツクラブの普及（重点施策1）	46
(1) 地域スポーツクラブの必要性	46
(2) 施策推進のステップ	46
3. ホームタウン・チーム等の応援（重点施策2）	47
(1) ホームタウン・チーム等の応援の意義	47
(2) 施策推進のステップ	47
4. スポーツ施設の充実（重点施策3）	48
(1) スポーツ施設の必要性	48
(2) 施策推進のステップ	48
第5章 計画の推進にあたって	51
1. 達成目標の目安（数値目標）	53
2. 計画の推進体制	57
3. 計画の評価及び見直し	57

資料編

- 資料1 スポーツ振興審議会委員名簿
- 資料2 スポーツ振興計画策定調整会議委員名簿
- 資料3 スポーツ振興計画策定の経過
- 資料4 町田市におけるスポーツ振興の取り組み
- 資料5 町田わいわいミーティング2008
- 資料6 町田市の主要スポーツ施設一覧

第1章 計画策定にあたって

1. 計画の主旨

(1) 計画策定の主旨

近年、ライフスタイルの変化や高齢社会の進展等、社会環境が変化する中で、スポーツの果たす役割・意義はますます重要になっています。

スポーツは、体を動かすという欲求に応えるとともに、精神的充足や楽しさ、喜びを与えるものであり、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与するものです。

また、スポーツは、心身両面にわたる健康の保持増進だけでなく、生活習慣病の予防に大きく貢献し、青少年の健全育成や地域コミュニティ形成にも重要な役割を果たします。

国は、スポーツ振興法で、市町村にスポーツ振興計画の策定を義務付けるとともに、町田市は中期経営計画の重点事業の一つとして「市民スポーツ振興」を掲げ、スポーツ振興計画の策定をうたっています。

こうした状況を踏まえ、町田市においてもスポーツ振興計画を策定します。

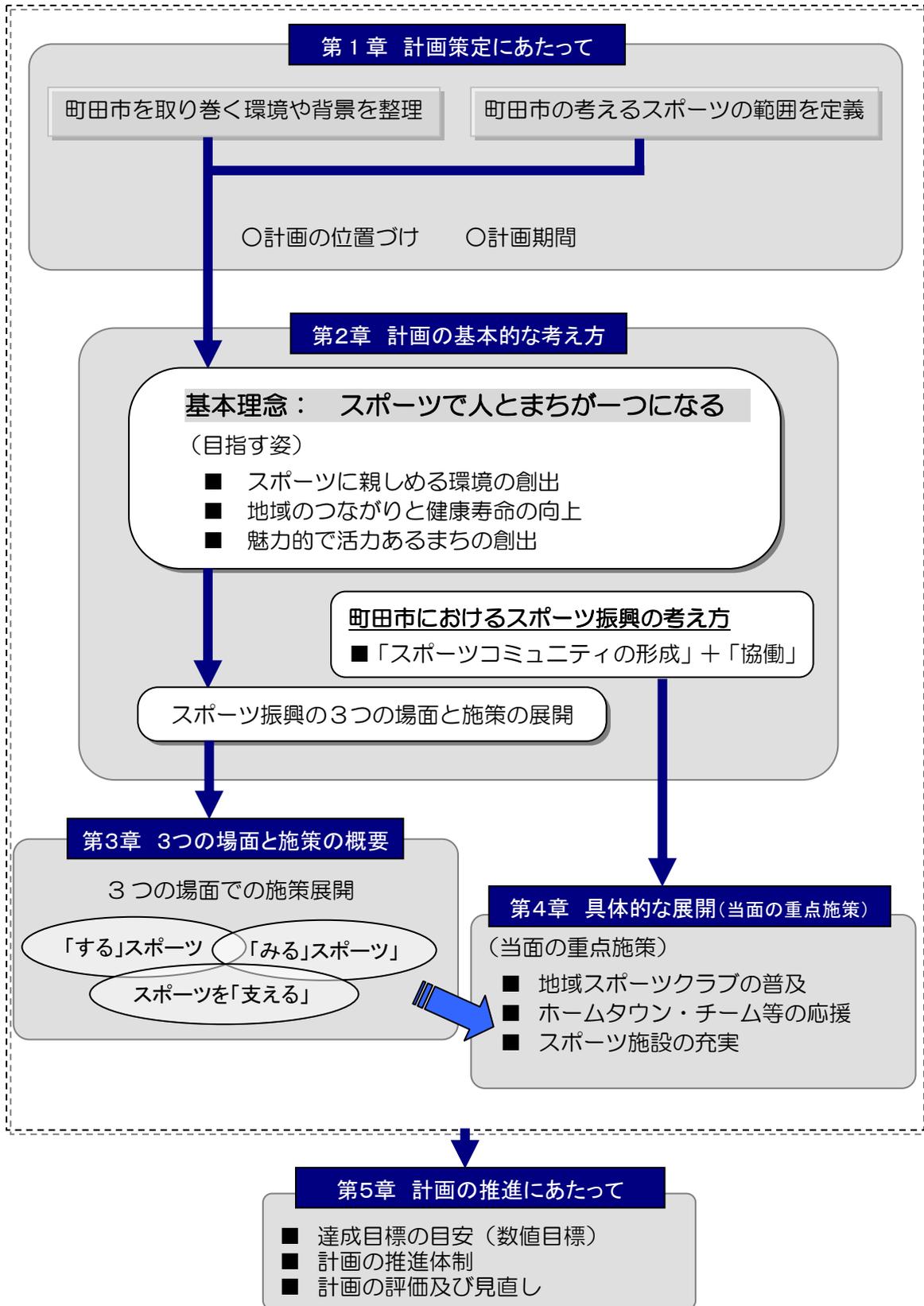
(2) 計画の全体像

本書の構成を次ページに示します。



【特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会】

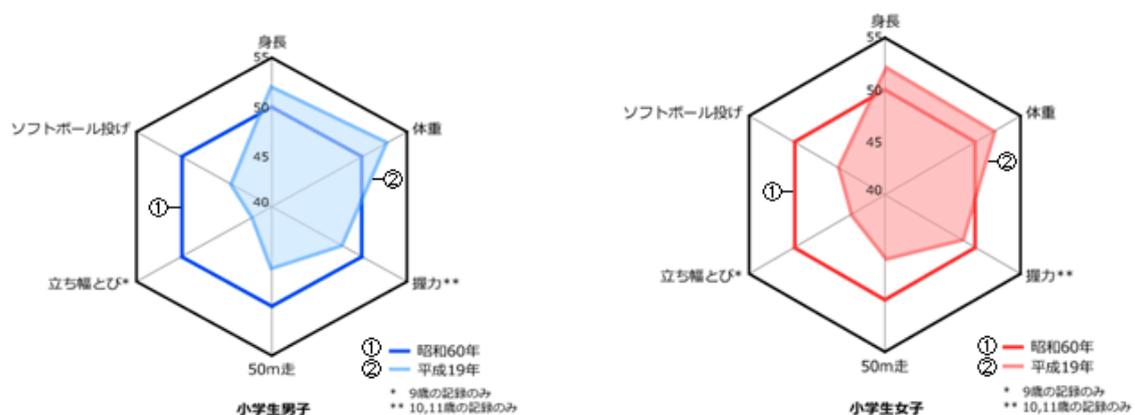
(本書の構成)



2. 計画策定の背景と目的

(社会的な背景)

子どもの体力や運動能力の低下が社会的な課題となっています。小学生の体力・運動能力調査の結果をみると、近年は横ばい傾向ながら、20年前と比較すると、小学生男女ともに、体格が良くなる一方で、運動能力の大きな低下がみられます。また、高齢化に加え、厚生労働省は精神的なストレスの増大による心身両面にわたる健康上の問題が顕在化していることを報告しています。

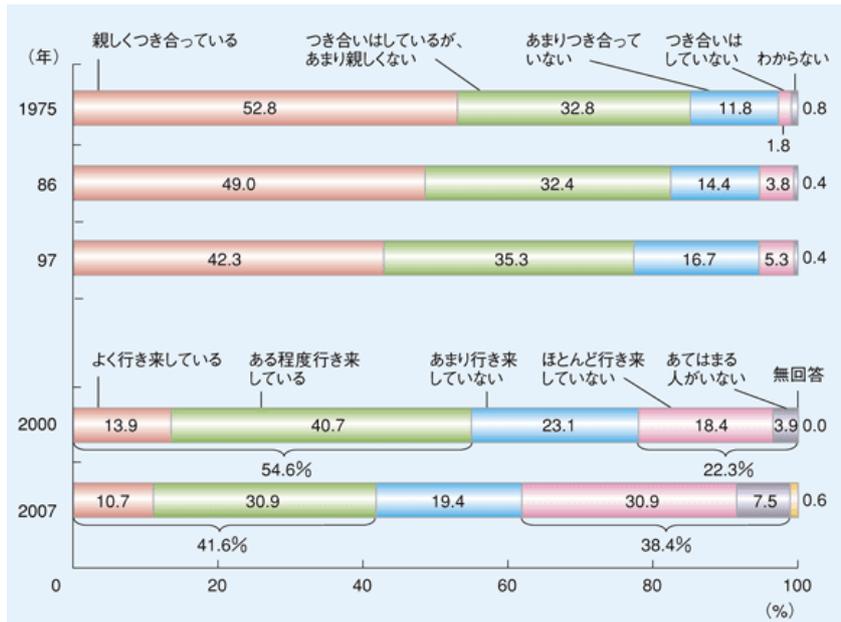


平成 19 年度と昭和 60 年度との体格及び体力の比較(小学生:9、10、11 歳)

出典: 文部科学省平成 19 年度体力・運動能力調査

人間関係の基盤であった地域社会も弱体化し地域力¹の低下が進んでいます。次ページの上の図は、内閣府の調査で近所付き合いの程度を尋ねた結果ですが、「親しくつき合っている」が75年には52.8%と半数を超えていましたが、97年には42.3%に下落しています。一方、「あまりつき合っていない」が同じ時期に11.8%から16.7%に高まるなど、近隣関係の希薄化をみてとれます。このような中、年齢や性別を問わず、地域社会でのさまざまな活動の中で、スポーツが果たしていく社会的役割が広く求められています。

¹ 地域力: 多様な「公共」の担い手が地域の問題・課題を主体的に解決し、地域住民の暮らしをより良くする力 (「地域力の向上に関する基礎調査報告書(平成 20 年 3 月)」東京都市長会)



近所付き合いの程度の推移
出典： 内閣府「社会意識に関する世論調査」

さらに、市民のスポーツニーズの多様化が進展する一方で、少子化等による学校運動部の活動の停滞、経済や社会情勢の変化に伴う企業スポーツの休・廃部などがみられ、従来とは違った形でのスポーツ活動を推進する新しい仕組みが求められています。

中学校における主な競技別運動部数の推移

(単位:部)

	競技名	平成 9 年	平成 14 年	平成 19 年	19 年－9 年		19 年－14 年	
					増減数	増減率	増減数	増減率
男子	軟式野球	8,959	8,945	9,050	91	1.0%	105	1.2%
	バスケットボール	7,595	7,508	7,265	△330	△4.3%	△243	△3.2%
	卓球	7,242	7,395	7,080	△162	△2.2%	△315	△4.3%
	サッカー	7,043	6,984	7,062	19	0.3%	78	1.1%
	陸上競技	7,251	6,627	6,430	△821	△11.3%	△197	△3.0%
女子	バレーボール	9,321	9,041	8,717	△604	△6.5%	△324	△3.6%
	ソフトテニス	7,881	7,609	7,402	△479	△6.1%	△207	△2.7%
	バスケットボール	7,646	7,486	7,521	△125	△1.6%	35	0.5%
	陸上競技	7,158	6,497	6,319	△839	△11.7%	△178	△2.7%
	卓球	6,474	6,458	6,001	△473	△7.3%	△457	△7.1%

(出典)財団法人日本中学校体育連盟調べ

(東京都の動向)

東京都は、2002年に策定した「スポーツ振興基本計画（東京スポーツビジョン）」を全面的に見直し、東京国体・全国障害者スポーツ大会などを視野に入れ、2016年度までを計画期間とする新たな「スポーツ振興基本計画『スポーツが都市を躍動させる』」を策定し、それらに向けた取り組みを進めています。

この計画では、新たな視点として、スポーツが東京に変革をもたらす可能性に着目し、「都市づくりとスポーツ」という観点から、東京における今後のスポーツ振興のあり方を展望しています。また、区市町村や都民等との連携、協働により取り組みを推進し、躍動するスポーツ都市東京の実現を目指しており、町田市においてもこれらを踏まえる必要があります。

(町田市の背景と取り組み)

町田市には、これまでスポーツ振興に関する計画がなく、社会経済環境の変化やスポーツ団体等からの要望を踏まえて、施設整備への投資、制度面の整備を推進してきました。

また、2007年度に策定した中期経営計画では、地域スポーツクラブ支援、市民スポーツの振興、アスリート活動支援、スポーツイベント開催支援などの重点事業が位置づけられました。

町田市では、市民団体が主催する青少年の日大会、市民体育祭など、市民のスポーツの取り組みが盛んであり、トップアスリートとして、オリンピック代表選手のほか、世界レベルの選手も数多くいます。高校では全国レベルの野球部があり、大学でも、世界レベルのクラブがあります。

近年ではサッカーのFC町田ゼルビア、フットサルのASVペスカドーラ町田といった町田市をホームタウン²とするチームも市民を巻き込み活発に活動しています。特に、FC町田ゼルビアは2009年度よりJFL³に昇格し、今後Jリーグを目指しており、市民のホームタウン・チームを応援する機運も高まっています。

² ホームタウン：Jリーグなどのスポーツクラブチームが本拠とする地域のことを指す。Jリーグでは、ホームタウンを「クラブと地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することができる町」と定義している。

³ JFL：日本フットボールリーグの略称。1999年から始まった日本におけるサッカーリーグの一つであり、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）と地域リーグの間に位置するカテゴリー。

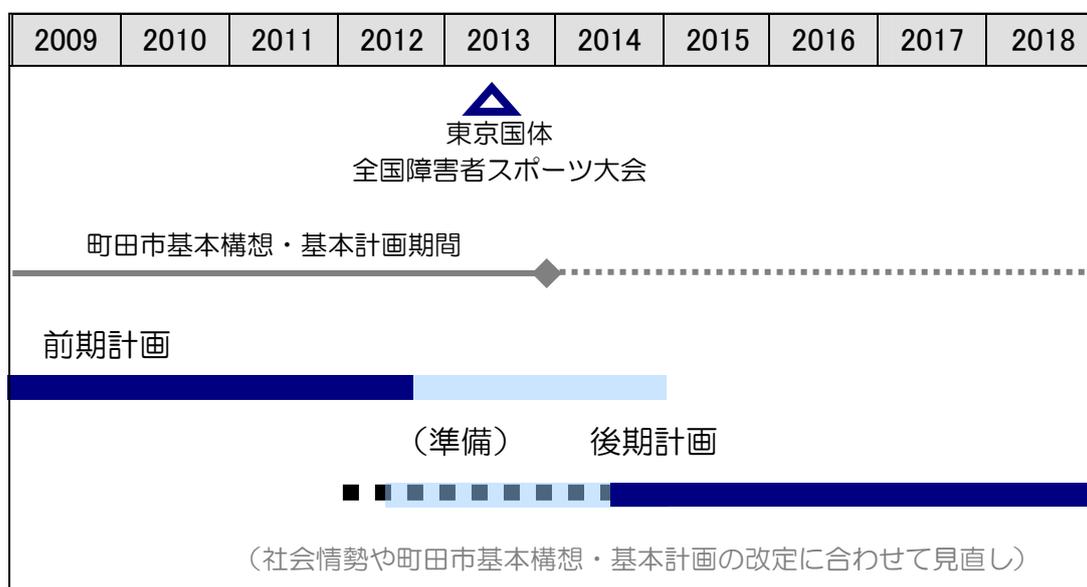
これらの背景を踏まえ、中長期的な町田市におけるスポーツ振興が担う役割を明確にし、基本的な考え方に基づいた施策の展開を示すことを目的として町田市スポーツ振興計画を策定します。

3. 計画の位置づけ

この計画は、スポーツ振興法に基づき、町田市のスポーツ振興計画として、市の上位・関連計画におけるスポーツ分野の施策を包括的に体系化し、より具体化するものです。

4. 計画の期間

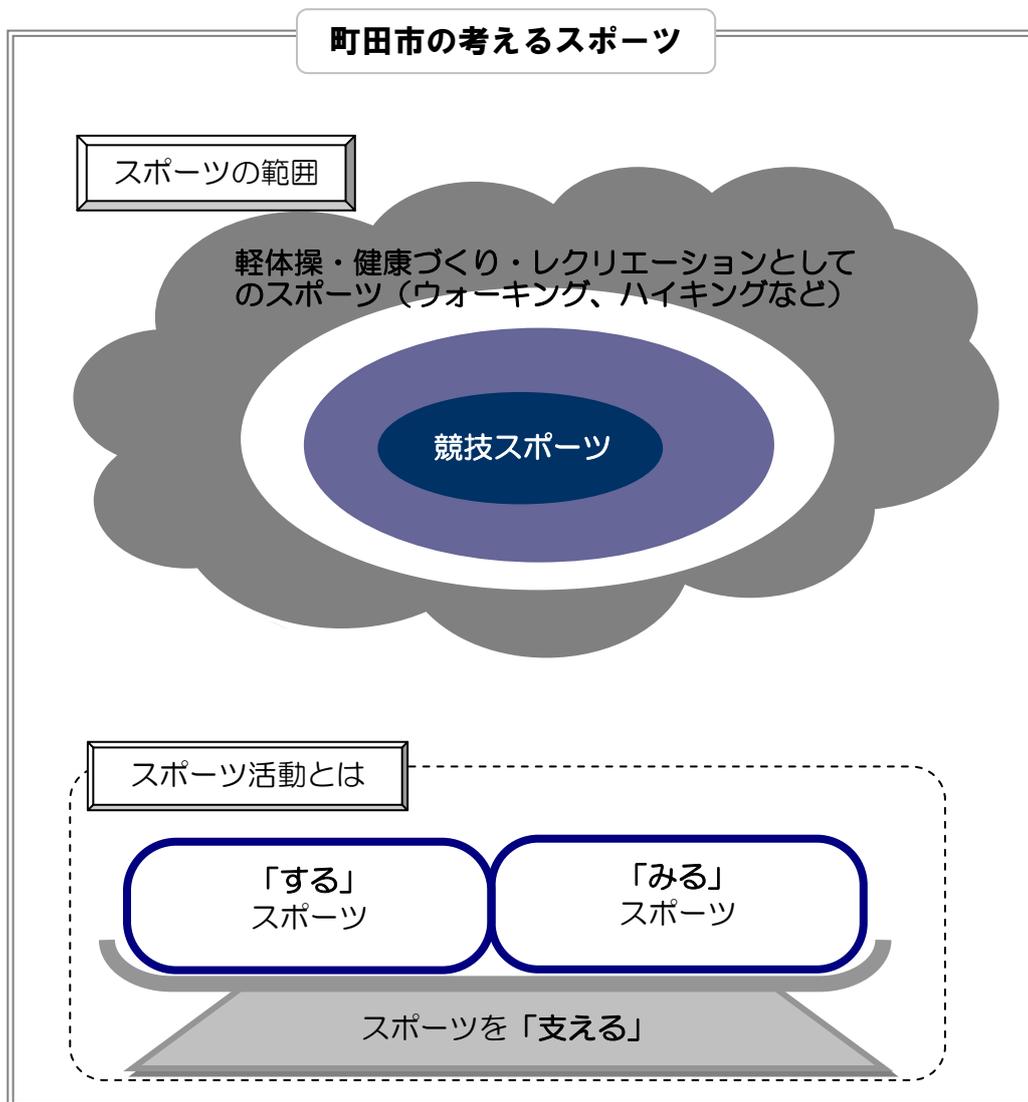
計画の期間は、2009年度を初年度として2018年度を最終年度とする10年間とします。社会情勢の変化などを踏まえ、町田市基本構想・基本計画の改定に合わせて、おおむね中間年で計画や目標の見直しを行います。



5. 本計画における「スポーツ」の範囲

この計画では「スポーツ」の範囲を、勝敗や記録を競い、それを目的とした競技スポーツから、ニュースポーツ⁴やストレッチ、ウォーキングなど、健康づくりやレクリエーションとしてのスポーツまでも含むものとします。

また、自らが身体を動かす「する」スポーツだけでなく、観戦などの「みる」スポーツや、スポーツを支えるための、情報提供、健康管理や安全確保などを含むスポーツ指導やボランティア活動もスポーツ活動としてとらえています。



⁴ ニュースポーツ： 技術やルールが比較的簡単で、だれでも、どこでも、いつでも容易に楽しめることを目的として、新しく考案や紹介がされたスポーツのこと。例えば、グラウンドゴルフ、ゲートボール、ソフトバレーボールなどであり、その数は数百種目あるとされている。

第2章 計画の基本的な考え方

1. スポーツ振興の基本理念

前章で述べたように、少子高齢社会の到来やコミュニティの弱体化などの現状を踏まえると、人と人とのつながりの再生が、社会的に大きな課題となってきたといえます。

町田市では、多様なスポーツとの関わりを通じて希薄となってきた人間関係をつなげ、仲間をつくり、まちが一つになれるようなスポーツ振興を目指していこうと考えています。このため、町田市ではスポーツ振興を一つの都市政策としてとらえ、「スポーツで人とまちが一つになる」を基本理念として掲げます。

このスポーツ振興計画の目指す姿として、「スポーツに親しめる環境の創出」、「地域のつながりと健康寿命の向上」、「魅力的で活力あるまちの創出」の3つを定めます。

基本理念： スポーツで人とまちが一つになる

【目指す姿】

■ スポーツに親しめる環境の創出

だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツをしたり、みたり、親しむことのできる環境を創出します。

■ 地域のつながりと健康寿命の向上

スポーツを通して、地域の誇りとつながりを育み、安全で安心なくらしと健康寿命⁵の向上を目指します。

■ 魅力的で活力あるまちの創出

スポーツの力で町田市を元気にし、魅力的で活力あるまちを生み出します。

⁵健康寿命:「心身ともに自立し、健康的に生活できる期間のこと」であり、2000年にWHO(世界保健機関)が提唱。わが国では、平成18年度の国民生活白書で、健康上の問題で日常生活に影響のない「無障害平均余命」を使って健康寿命を表している。

2. スポーツ振興の考え方

(1) スポーツ振興で想定する3つの形態

町田市におけるスポーツ振興の考え方として、スポーツを楽しむ以下の3つの形態を想定し、スポーツコミュニティを形成することで、「目指す姿」を実現します。ここで、スポーツコミュニティとは、スポーツを中心としてさまざまなかかわりをもつ緩やかな人の集まりを言います。

(スポーツ振興で想定する3つの形態)

- ★個人やグループが個別にスポーツを楽しむ「個別のスポーツグループ」
- ★地域スポーツクラブなどを核として、地域の子どもからお年寄りまでが地域密着型でスポーツを楽しむ「地域型スポーツコミュニティ」
- ★ホームタウン・チームなどスポーツに関するテーマを中心として、スポーツを「する」「みる」「支える」の3つの場面で、色々な楽しみ方ができる「都市・テーマ型スポーツコミュニティ」

特に、スポーツとの多様なかかわりを通じて、地域型スポーツコミュニティと、都市・テーマ型スポーツコミュニティという2つのスポーツコミュニティの形成に重点を置いて、施策を展開します。

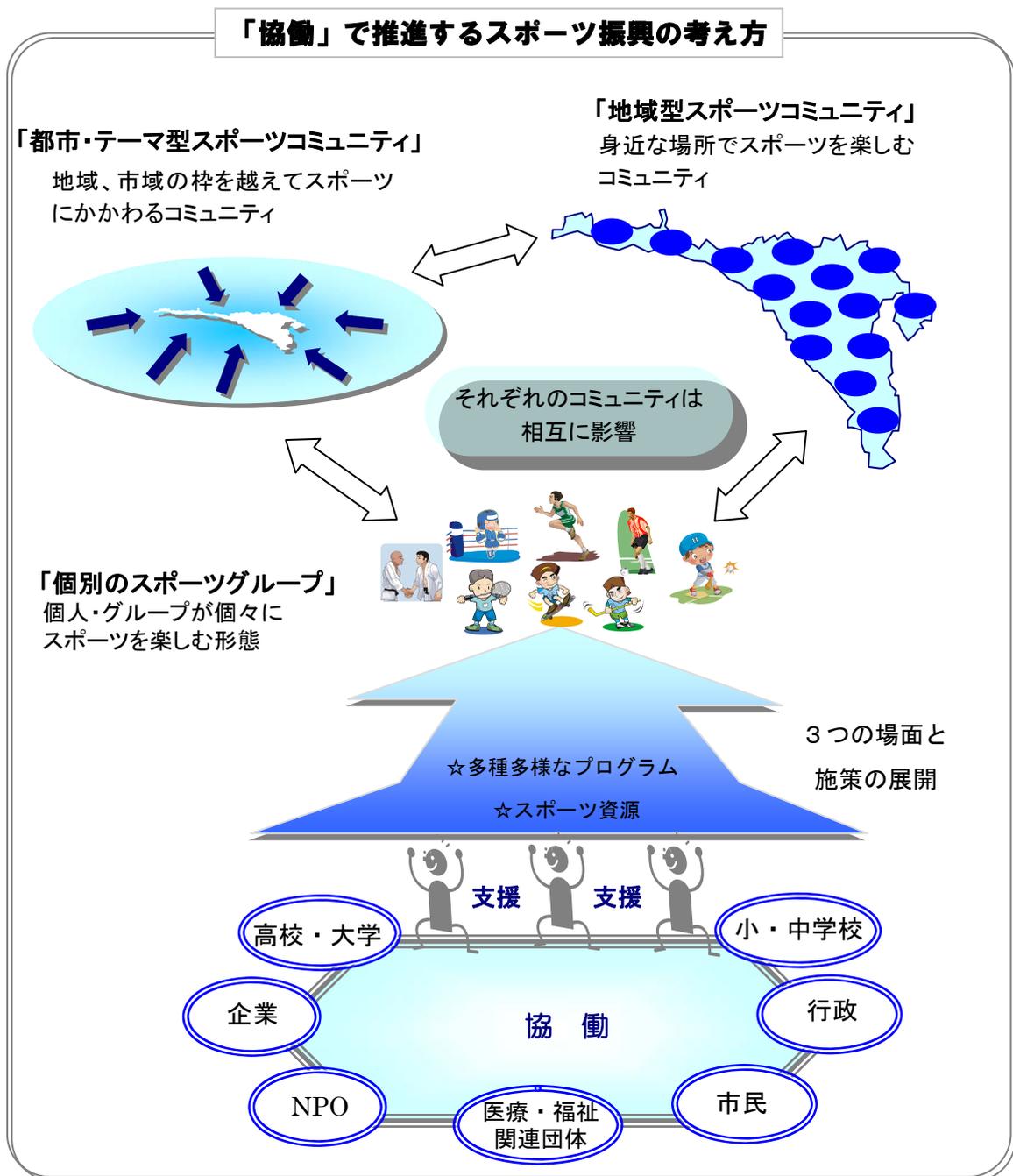
地域型スポーツコミュニティの形成により、地域コミュニティ活動を盛んにし、スポーツ振興を通して地域住民自らによる見守りや青少年の健全育成などといった社会的な“つながり”を強めていきます。また、都市・テーマ型スポーツコミュニティの形成により、町田市を核とした交流の輪を広げ、コンベンション⁶やイベントの開催などによる産業の振興など、地域の活性化につなげていきます。

⁶コンベンション: 博覧会や見本市などの大規模な催しのこと。

(2) 多様な主体による「協働のスポーツ振興」

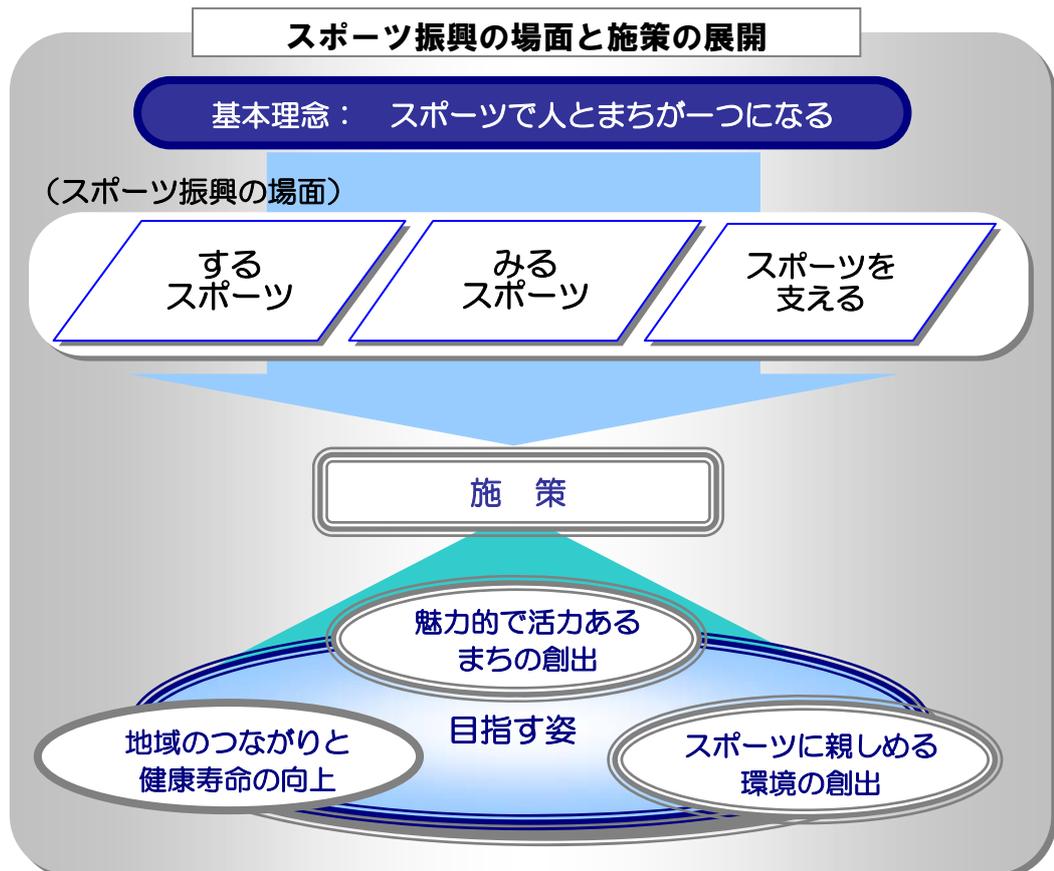
上記の3つのコミュニティ等に対して、市民・企業・大学・行政などが協働することにより、あらゆるスポーツ資源を活かし、多種多様な支援策を創出していきます。

以下に、スポーツに関連する多様な主体が、協働で推進する町田市のスポーツ振興の考え方をイメージ図で示しています。



3. スポーツ振興の3つの場面と施策の展開

町田市におけるスポーツ振興の基本理念「スポーツで人とまちが一つになる」を基軸とし、「する」スポーツ、「みる」スポーツ、スポーツを「支える」の3つの場面で、「施策」を展開することによりスポーツ振興の推進を図り、「目指す姿」を実現します。



(スポーツ振興の3つの場面)

■ 「する」スポーツの施策の要点

町田市の考える「する」スポーツとは、子どもから高齢者、障がいのある人、初心者から上級者、さらにはトップアスリートまでさまざまなレベルの人が主体的にスポーツを「する」場面のことです。

スポーツをする場所や機会があるにもかかわらず、「スポーツに関心がない」、「したくでもできない」といった状況もみられます。いつでも、だれもがスポーツ活動に関わることができ、スポーツコミュニティの形成を核とする、「する」スポーツの新しい環境づくりを進めます。

■ 「みる」スポーツの施策の要点

町田市の考える「みる」スポーツとは、スポーツを楽しむ人のすそ野を広げて、スポーツに接する機会を増やし、スポーツを通じて仲間をつくり、生活の質を高めていくことであると考えています。トップアスリートのパフォーマンスに接することで感動やあこがれが生まれ、スポーツをする動機づけにもなります。

ホームタウン・チームの浸透などを図りながら、市民がスポーツの魅力を感じることでできる「みる」スポーツの環境づくりを進めます。

■ スポーツを「支える」の施策の要点

町田市の考える、スポーツを「支える」とは、継続してスポーツを楽しむことのできるように、スポーツイベントのボランティア、指導者やリーダー、スタッフなど、市民、企業、大学、行政など、地域の協働によってスポーツ環境を支える場面のことです。

スポーツ情報の提供や施設・設備などの充実により、新たにスポーツに取り組む人を「支える」ことに取り組んでいきます。

4. スポーツコミュニティと3つの場面との関係

町田市のスポーツ振興の方策は、スポーツコミュニティの形成とスポーツ活動の「する」、「みる」、「支える」の3つの場面に係る活動の支援について重点的に展開します。ここで展開されるそれぞれの施策は、相互に関連性があり、総合的、一体的に進めることで効果を発揮することができます。

市民、企業、団体、学校などと協働し、“スポーツ人口の拡大”、そして「する」、「みる」、「支える」の“3つの場面の融合の拡大”に資する施策を重点的に推進していきます。

